

平成 23 年 4 月 5 日
林 野 庁
経 済 産 業 省
国 土 交 通 省
環 境 省

住宅建設資材に係る需給状況の緊急調査結果概要

1. 目的

住宅建設資材に関する生産拠点の損壊、物流の停滞、計画停電の影響、応急仮設住宅対応による需要の増加等により、住宅建設資材の需給状況にどの程度の影響があるのか、いつごろ回復するのか、過剰な在庫の保有がないのかといったことについて、林野庁、経済産業省、国土交通省、環境省が連携してアンケート等を行い、住宅建設資材の需給状況について現状の把握に努める。

2. 調査の概要

(1) 調査対象者

住宅生産関連団体、住宅建設資材生産団体、住宅建設資材流通団体、木材関連団体等

(2) 調査対象資材

合板、パーティクルボード、MDF、断熱材、外装材（窯業系）、サッシ、複層ガラス、鋼材、キッチン、洗面化粧台、バスユニット、給湯設備機器、浄化槽、排水トラップ、電気配線、塩ビ管

3. 結果概要

(1) 応急仮設住宅に係る資材の調達について

① 合板

構造用合板については、一部の工場が被災したが、他の工場でフル生産体制を敷くことにより、十分な供給量が確保できる見込み。カラー合板については、厚さの違う合板や代替品での供給を含め、応急仮設住宅の需要増に十分対応できる見込み。

② グラスウール

工場の被災や計画停電の実施により生産量が減少しているが、工場の操業再開や輸入の拡大（約 4,000 トン／月、震災前の月産量の約 25% に相当）により、十分な供給量が確保できる見込み。

③ 浄化槽

計画停電の実施により生産量が減少しているが、操業時間の延長等フル生産体制を敷くことや、生産効率の良い小型浄化槽と中型浄化槽の柔軟な組み合わせにより対応することで、応急仮設住宅の需要増に十分対応できる見込み。

なお、応急仮設住宅の配置計画等に応じた適切な浄化槽の供給等に当たっては、関係省庁が連携して対応することが必要。

④ その他資材

必要な数量については概ね確保できる見込み。

(2) 一般住宅に係る資材の調達について

主要な住宅建設資材の流通事業者に対して、流通量の震災前後の状況についてアンケート調査を行ったところ、合板、パーティクルボード及びグラスウールについては注文が増加しており、これら一部の資材では仮需が発生している状況との回答があった。

また、その他、震災による生産施設の損傷、物流の停滞、計画停電の実施等により、供給量が減少している資材も見られるが、震災後の混乱が収まるにつれ、正常化する面も多いと考えられ、当面の間、動向を注視することとする。

さらに、一部の資材については、生産を再開できていない工場もあるが、その再開に向けて関係省庁が連携して対応策について検討していく考え。

住宅建設資材に係る需給状況の緊急調査結果

品目		供給量		応急仮設住宅における需要量
		調査時点	今後の見込み	
合板	構造用合板	工場の被災により、震災前と比較して生産量は3割程度減。	被災していない全国の生産工場でフル生産体制を敷くことにより、4月以降は震災前の生産量を確保できる見込み。	生産量に占める応急仮設住宅に係る需要量のシェアは小さく、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
	カラー合板	工場の被災により、一時的に生産が落ち込んだが、既に操業を再開している。	概ね震災前の生産量を確保できる見込み。	カラー合板については、厚さの違う合板や代替品での供給を含め、応急仮設住宅の需要増に十分対応できる見込み。
パーティクルボード		工場の被災、電力不足及び原材料不足により、震災前と比較して生産量は2割程度減。	計画停電と原材料調達動向によるが、被災した工場の一部は5月頃に操業が再開可能であり、生産量は震災前の9割程度まで回復する見込み。	—
MDF		工場の被災により、震災前と比較して生産量は2割程度減。	被災工場以外の工場における生産増強により、5月頃には震災前の生産量が確保できる見込み。	—
断熱材	グラスウール	工場の被災や計画停電の影響により、震災前と比較して生産量は3割程度減。	被災した一部の工場の操業再開や輸入の拡大(4月から4,000t/月以上)により、4月下旬からは平時の供給量が確保できる見込み。他の被災工場の操業再開により、さらに5月以降は昨年以上の供給量が確保できる見込み。	生産量に占める応急仮設住宅に係る需要量のシェアは、現時点ベースで5%程度、4月下旬以降の見込みベースで3%程度であり、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
	ロックウール	震災による影響は無し。	震災前の生産量を維持。	—
	押出発泡ポリスチレンフォーム	工場の被災と計画停電により、震災前と比較して生産量は5割程度減。	計画停電により生産量の変動はあるが、4月中には震災前の9割程度まで回復する見込み。	—
外装材(窯業系)		工場の被災と原材料調達困難により、震災前と比較して生産量は3.5割程度減。	一部被災工場の操業再開、さらに、計画停電の要素を除けば全国の工場でフル生産体制を敷くことにより不足分をカバーし震災前の生産量を確保できる見込み。	—
サッシ		工場の被災と計画停電により、震災前と比較して生産量は2割程度減。	工場の操業再開等により、4月以降は震災前の生産量を確保できる見込み。今後、さらなる需要増加が生じた場合でも生産増強等に対応可能の見込み。	生産量に占める応急仮設住宅に係る需要量のシェアは、現時点ベースで5%程度、4月以降の見込みベースで4%程度であり、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
複層ガラス		工場の被災、原料調達困難により、震災前と比較して生産量は1割程度減。	工場の操業再開等により、4月中旬以降は震災前の生産量を確保できる見込み。	—
鋼材		住宅建設資材向けの鋼材は、仮設住宅等の需要増により、震災前と比較して増産。	復興需要増に応じて更なる増産を見込む。	—
住宅設備	キッチン	工場の被災により、震災前と比較して生産量が一時的に落ち込んだが、大半の工場が生産を再開。	計画停電の影響はあるものの、順次震災前の生産量が確保される見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
	洗面化粧台	工場の被災により、震災前と比較して生産量が一時的に落ち込んだが、大半の工場が生産を再開。	計画停電の影響はあるものの、順次震災前の生産量が確保される見込み。	—
	バスユニット	一部部品の供給不足により生産量が一時的に落ち込んだが、部品供給の目処が立ち、生産力は回復。	計画停電の影響はあるものの、順次震災前の生産量が確保される見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
	給湯設備機器	一部部品の供給不足により生産量減。	部品調達の動向によるが、必要性の高いものから順次供給される見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
浄化槽		計画停電の影響により、震災前と比較して生産量は1割程度減。	フル生産体制を敷くことにより、震災前の5割増し程度の生産量の確保が可能。今後の原材料の確保状況によっては生産量に影響を及ぼす可能性もある。	小型槽であれば概ね1万戸/月、中型槽であれば概ね5千戸/月分の供給が可能。設置する浄化槽の規模により、応急仮設住宅の配置計画の検討が必要。
排水トラップ		震災の被災工場の影響で生産量減少。	被災地域以外の工場への生産移管により対応。5月末には震災前と同程度の生産量に回復する見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
電気配線(銅)		工場の被災、原材料の調達困難、計画停電の影響により、震災前と比較して生産量は4割程度減。	計画停電の動向によるが、原材料(可塑剤等塩ビコンパウンド)の調達も改善しつつあり、4月以降順次回復し、5月初頭には元の生産量を確保できる見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。
塩ビ管		計画停電の影響により、震災前と比較して生産量は4割程度減。	計画停電が解消されれば、生産量は震災前と同等の生産量を確保できる見込み。	現時点では、供給に大きな問題は無いと見込まれる。